

FOCUS UP(今月の表紙)

川崎由意「勝てるチャンスは逃したくない」



今年5月のグリコセブンティーンアイス杯を制し、一昨年の大岡産業レディース以来の3勝目を挙げた川崎由意。自身を含めて5人いる48期タイトルホルダーのトップを目指し、年内の残り7大会に「全集中」の構えだ。(PHOTO: 馬場高志)

「今年所属先の社長(重見康弘氏)が新しいトーナメント(アイキョーホームプレゼンツ2022)を作ってください、そこに向けて気持ちを入れて練習していました。その前のグリコで優勝できるとは思ってなかったけど、自分の好きなコ

ンディションだったので(笑)」「本丸」のアイキョーは4位に終わったが、「いちばん苦手のロングのコンディションで上位にこれた」ことを自信に、続く六甲クイーンズでも3位入賞を果たし、いよいよ覚醒の時きたる!と思われた。

だが、連覇を目指した大岡産業レディースは総合56位でまさかの予選落ち。「無意識に気負っていたのか、空回りしてしまった」と、川崎はメンタル面を敗因に挙げる。

「大岡産業さんにはスポンサー契約もしてもらっているのに大コケしてしまって(苦笑)。

でも、それで逆に開き直りました。グリコのように得意なレーンでは優勝、苦手なレーンでも今ある自分の力を出し切って最低限予選は通過するようにしよう、と。勝てるチャンスは逃したくないですね」

48期でプロになれたことに感謝

本格的にボウリングを始めたのは、駒澤大学ボウリング部に入学してから。高校時代までは「剣道一直線」の体育会系少女だった。

「同じスポーツなのに、着飾った姿でプレーしているP★リーガーをテレビで観て憧れていました(笑)。でも大学のボウリング部が同好会のようなサークルだったら、たぶん剣道を続けていたと思います」

剣道で鍛えた体力と体幹はボウリングでも大きな武器とな

り、日進月歩で実力アップ。3年時に48期のプロテストを受け、みごと一発合格を果たす。

「48期でプロになれたことにすごく感謝しています。同期の山田幸ちゃん(デビューイヤーに全日本で初V)、久保田彩花ちゃん(3年目に2勝)、宇山侑花ちゃん(4年目に東海オープンV)はプロテスト当時19歳。みんな新人戦ではないタイトルを獲って、自分とは次元が違うと思っていました。そんなメンバーが5年間出続けて勝てなかった新人戦が自分の初タイトルだったのは、いろんな意味で大きかったですね」

今季は川崎のほか、内藤真裕実(関西オープン)、山田幸(六甲クイーンズ)と48期が3勝。「絶対女王」姫路麗(33期)もその勢いに警戒を強めている。

「気持ちの強さとか、一投に

懸ける思いとか、姫路プロは本当にすごい。今は48期生みんな挑んでいる感じです。でも、技術で勝てなくても気持ちでは負けたくない。残り試合もがんばって、あと1勝はしたいですね」

取材協力: アイキョーボウル

川崎プロと一緒に投げよう! 近日開催のチャレンジマッチ

- 9月11日 神奈川・相模原パークレーンズ
- 9月18日 大阪・ボウアロー八尾店 ※with大嶋有香、久保田彩花
- 9月19日 大阪・ボウアロー松原店 ※with幸木百合菜
- 9月28日 神奈川・ラウンドワン川崎大師店
- 9月30日 千葉・富津スターレーン
- 10月1日 千葉・アイキョーボウル
- 10月6日 長野・アストロボウル ※with岩見彩乃
- 10月8日 東京・立川スターレーン
- 10月9日 東京・トミコシ高島平ボウル
- 10月10日 埼玉・春日部ターキーボウル

かわさき・ゆい / 1993年12月2日生まれ、千葉県出身。156センチ、右投げ。血液型O。2015年プロ入り(48期/ライセンスNo.533)。優勝3回。今年度ポイントランキング4位、アベレージ212.78(大岡産業レディース終了現在)。P★League優勝3回(シーズン優勝1回)。所属: アイキョーボウル/サンブリッジ



「数々の記念品を展示した『V4折願の必勝タルマ』には『できれば年内にも目を入れたらいいな』という思いが込められている」

キュービカAMF社・ジャン上級副社長に聞く『ストリングピンスポッターが拓くボウリングの新時代』

ストリングピンスポッター、いわゆる吊りピン方式のピンスポッターが、世界で急速に普及し始めているという。日本では笹塚ボウル(東京都渋谷区)がキュービカAMF社製の導入第1号センターとして、今年12月にリニューアルオープンの予定だ。そこで世界シェアNo.1の『EDGE String』開発メーカーであるキュービカAMF社のジャン・アネスティス・アブラム上級副社長に、その特徴やスポーツボウリングへの普及の可能性などをお聞きした。

簡単操作、低コストでフリーフォール式を凌駕

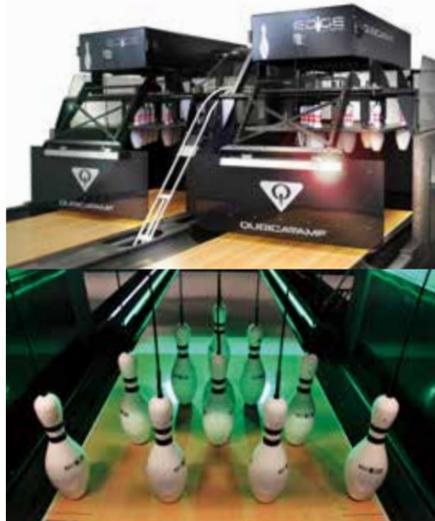
弊社がストリングピンスポッターを市場に投入したのは2002年でしたが、しばらくの間ボウリング場に設置されるのは、大半が従来のフリーフォールマシンでした。何度かのモデルチェンジを経て本格的に普及が始まったのが2010年代。さらに2019年に『EDGE String』を発表して以降は、ストリングピンスポッターの導入率が約9割と、従来のフリー

フォール式を圧倒しています。熟練のメカニックを必要とするフリーフォールマシンと比べて、最新の機種では、調整は3カ所のみで、わずかに6つのタスクを心得ていれば操作が可能。人材不足、人手不足に悩まされているセンターには、その解消に大きく貢献できると考えています。そして人件費の削減とともに、消費電力(参

考値70~90%OFF)やパーツ代(同65~85%OFF)等のコストも大幅に削減できます。

今年7月にはIBF承認の初の国際大会で採用

吊りピンのイメージから、ピンアクションに懸念を抱かれるボウラーもおられると思いますが、弊社独自のストリングパス設計により、フリーフォールマシンに匹敵するピンアクションを実現しました。また2020年7月には、フリーフォールマシンとのスコアの出方に関する比較調査を行いました。PBAプロやリーグボウラーなど65名に参加していただき、同条件で600ゲーム以上のテストを行った結果、アベレージはフリーフォールマシンが203.4、EDGE Stringが204.7と、その差はわずか1.3ピンという結果にな



▲キュービカAMF社のEDGE String。ピンがひもで吊るされているのが従来式との大きな違いだが、前方からはひもがほとんど見えないようになっている



▲キュービカAMF・ジャン上級副社長

りました。IBF(国際ボウリング連盟)は2020年11月に、全承認大会を含むリーグとトーナメントにおけるストリングピンスポッターの使用を承認(日本のJBCは2022年4月1日に承認)しました。今年の7月7日から17日まで、米・バーミングガムで開催されたワールドゲームス2022では、初めてIBF承認の国際大会がストリングピンスポッターを使用して行われました。弊社のEDGE Stringが採用され、大会用に8台を特別に設置しました。ほとんどトラブルらしいトラブルもなく、競技ボウリングでの使用に認められることを証明しました。

ストリングピンスポッターがボウリングの新しい可能性の扉を開き、さらに娯楽用ボウリングの枠を超えて、スポーツボウリング、競技ボウリングの世界にも広がっていくことを確信しています。

笹塚ボウル・財津宜史社長

2015年のフジロックフェスティバルで2レーンのストリングピンスポッターを設置してイベントを実施しました。4日間、朝から晩まで列が途切れることがありませんでしたが、まったくといっていいくらいノータラブルでした。そのときに、次に入れ替えるならこれしかないと思いました。アメリカにも視察に行きましたが、「メカニックの仕事の95パーセントがなくなった」「部品に一部屋使っていたのが棚3段に収まる」と言っていました。レジャーで楽しめる方は、従来のフリーフォール式との差異に気付かないと思います。会員さんも、慣れるのに1カ月もかからないでしょう。心配があるとするなら、プロを指そうというようなジュニアたちのことでした。しかしIBFがすでに承認し、USBCも認める方向であるなら、今後トーナメントがストリングピンスポッターで行われるようになる流れは変わらないと思います。